

ILSI Japan
The 7th International Conference on Nutrition and Aging

ILSI Japan
第7回「栄養とエイジング」国際会議

“健康寿命の延伸を目指して”

●●● 開 催 日 ●●●

2015年9月29日(火)、30日(水)

●●● 開 催 場 所 ●●●

東京大学 弥生講堂・一条ホール

●●● 主 催 ●●●

特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構(ILSI Japan)

国際会議のねらい

International Life Sciences Institute, ILSI は、1978 年にアメリカで設立された非営利の団体です。科学的な視点で、健康・栄養・安全性・環境に関わる問題の解決および正しい理解を目指すとともに、今後発生する恐れのある問題を事前に予測して対応していくなど、活発な活動を行っています。

ILSI Japan は、ILSI の日本支部として 1981 年に設立され、その 10 周年記念として、1991 年に第 1 回「栄養とエイジング」国際会議を開催し、以降 4 年に一度、既に 6 回に亘り同国際会議を開催して、国際的評価を得ています。

1950 年代には主要先進国中、最低だった日本の平均寿命が、1970 年代～80 年代には総て抜き去り、世界一に躍り出ました。その後、わが国では、超高齢化が加速度的に進み、平均寿命が男女ともに 80 歳を超えています。厚生労働省が平成 24 年に公表した「国民の健康の増進の推進に関する基本的な方針」に「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が提案されています。健康な状態での長寿であるためには、医学、特に予防医学の進歩に基盤を置いて、その恩恵を受けたうえで日頃から適切な食事と適切な身体活動を心がけることによって肉体的、精神的な健康を維持することが不可欠です。

また近年では、私たちの健康には、その時々食事や栄養の内容ばかりでなく、胎児期あるいは小児期の内容がエピジェネティックな変化を介してその後の一生涯を通じて影響すると理解されています。食事や栄養の役割はライフステージごとに異なるため、最適な栄養状態を一義的に決めることは難しいと言えます。高齢期に高い ADL (日常生活動作) を維持しながら過ごすためには、そこに至る過程において、とりわけメタボリックシンドロームの予防を意識した先制的な管理が重要であります。その予防的管理を具体的な行動に移す推進力を得るために、食事や活動と肉体的、精神的な健康との関連性について最新の情報や考え方を知る必要があります。

したがって、今回の第 7 回「栄養とエイジング」国際会議では、「健康寿命の延伸を目指して」を主テーマとし、「和食」の良さ、栄養の最適化、脳・神経機能への影響、腸内細菌研究、身体活動に焦点を当て、アカデミアのみならず産業界からも研究成果報告を行い、議論を深めていくこととなります。

本知見が、今後、食品・医薬品業界に高齢化社会を見据えた食品やフードサービスの開発にヒントを提供できるものと信じています。

国際会議の内容

健康日本21(第2次)において、達成すべき最終目標として位置づけられた「健康寿命の延伸」に焦点を絞り、生活習慣病の発症予防や重症化予防を図り、生活習慣の改善を目指していきます。平均寿命の伸びに健康寿命の伸びが追いつかない状況下、今後不健康な時期が延伸される事が予想されます。不健康な状態になる時点を遅らせることは、生活の質の低下を防ぎ、社会的負担の軽減にもつながるものと考えられます。そのために、第7回「栄養とエイジング」国際会議では、食事、栄養、身体活動という切り口で最新の研究内容を紹介し、討議する場とします。

本国際会議では、下記プログラムの項にあるように5つのセッションを設けています。また、各セッションに企業からの発表も加え、応用分野での成果についても紹介し、活発な討論を推進していきます。

- ・ 和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。和食が健康を維持、増進する食として一層グローバルに注目されつつあります。和食を日本の食文化とともに健康長寿との関連性について正しく理解する一助とします。
- ・ 近年では、私たちの健康には、その時々のご食事や栄養の内容ばかりでなく、胎児期あるいは小児期の内容がエピジェネティックな変化を介してその後の一生涯を通じて影響すると理解されています。最適な栄養状態を考えるための最新の情報提供を行います。
- ・ 今日の超高齢化社会においては、長寿が必ずしも手放しでは喜ばない社会問題が顕在化(要介護高齢者の増加)しつつあります。日常の食事の嗜好や内容、さらには食べ方と脳・神経・精神との関わりを示す最新の情報を整理し、豊かな心に支えられたADL(日常生活動作)を送るために心がけるべき食生活の在り方を議論します。
- ・ 食事や心理・精神環境が腸内の細菌叢に影響を与えることはよく経験され、知られています。そこで、ヒトマイクロバイオーームと呼ばれる、ヒト常在菌の菌叢解析と疾患との関連を扱う研究分野の最新の世界に触れ、健康寿命と腸内細菌との関わりに関する新たな展望をうかがいます。
- ・ 運動不足や過度の栄養摂取による肥満や内臓脂肪の蓄積は、炎症や酸化ストレス反応などを介してロコモや生活習慣病、さらには認知機能低下を引き起こすと考えられています。これらは負のスパイラルとなって、高齢期の要介護生活の要因となっています。不活動、不使用に起因する筋肉の量的、質的低下、ならびに認知機能への影響と対策に関する最新の情報を提供します。

プログラム

メインテーマ:健康寿命の延伸を目指して

セッション1:和食(世界無形文化遺産)

セッション2:先制医療としての栄養の最適化

セッション3:食事と脳・神経機能

セッション4:腸内細菌の研究展望

セッション5:“不活動“の生理学(身体活動と栄養学)

同時にポスターセッション、企業展示も開催し、特に若い研究者の発表の場とすることにより、継続的な研究、関心につなげる機会としていきます。

用語

日本語、英語(同時通訳付)

参加登録費概要

会員(一般):25,000円(7/31迄の事前登録 20,000円)

会員(65歳以上):10,000円(7/31迄の事前登録 7,000円)

会員(35歳以下):10,000円(7/31迄の事前登録 7,000円)

非会員:30,000円(7/31迄の事前登録 25,000円)

学 生:5,000円

ポスターセッション参加登録料(設備利用料として)

一律5,000円

企業展示登録料(設備利用料として)

一律10,000円

*プログラムや参加登録を含むセカンドサーキュラーが必要な方、またポスターセッション発表ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、FAX(03-5215-3537)または e-mail(aging@ilsijapan.org)にてお申し込みください。なお、ILSI Japan ホームページにて開催案内を掲載しておりますので、そちらも閲覧下さい(<http://www.ilsijapan.org/>)。

組織委員会

委員長: 西山 徹 (ILSI JAPAN 理事長、(元)味の素株式会社 顧問)

委員: 木村 修一 (ILSI JAPAN 会長、東北大学 名誉教授)

桑田 有 (人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科教授)

福島 昭治 (中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター所長)

高瀬 光徳 (森永乳業株式会社 常務取締役)

古野 純典 (国立健康・栄養研究所 理事兼所長)

岩元 睦夫 ((公社)日本フードスペシャリスト協会 会長)

坂田 隆 (石巻専修大学 学長)

清水 誠 (東京農業大学 教授)

辻村 英雄 (サントリーホールディングス株式会社 専務取締役)

戸上 貴司 (ILSI Japan CHP (健康推進協力センター) 代表)

松山 旭 (キッコーマン株式会社 常務執行役員)

安川 拓次 (花王株式会社 エグゼクティブ・フェロー)

若林 奏 (株式会社ニチレイ 品質保証部マネージャー)

伊藤 建比古 (森永製菓株式会社 取締役)

辻 智子 (日本水産株式会社 非常勤顧問)

山口 隆司 (ILSI Japan 事務局長)

(敬称略、順不同)

実行委員: ILSI Japan 栄養研究部会、ILSI Japan 事務局



ILSI

International Life
Sciences Institute
Japan

ILSI Japan

特定非営利活動法人

国際生命科学研究機構

〒102-0083

東京都千代田区麹町 3-5-19

にしかわビル 5階

TEL 03-5215-3535

FAX 03-5215-3537